

側弯症の治療

側弯症の治療は側弯の原因や程度、年齢によって判断されますが、一般的に側弯の角度が 20 度～45 度程度の場合は装具による治療を行います。義肢装具士が採型を行い、**オーダーメイド**の装具を作成します。

聖ヨゼフ医療福祉センターの側弯症外来では、特発性側弯症治療に用いるボストンブレースや OMC ブレース（大阪医大式装具）の他、主に症候性側弯症の患者様には **DSB (Dynamic Spinal Brace = 動的脊柱装具 / 愛称プレーリーくん)** の作成も行っています。一般的な側弯症装具に比べ装着のストレスが少なく、側弯予防や姿勢の維持が可能です。



ボストンブレース



OMC ブレース（大阪医大式装具）

プレーリーくんの特徴

プレーリーくんは一人一人の目的に合わせてデザインされます。姿勢の現状だけでなく、ご本人や介助者の生活スタイルなども参考に設計し、豊富なカラーバリエーションの中から完全オリジナルの装具が出来上がります。

- ・ **ポリカーボネイトの反発性**を生かして脊柱を無理なく支えます。
- ・ **成長に合わせて高さ調整**が可能です。
- ・ 凸側は柔らかいプラスチックを使用しており、**生活動作を阻害しません**。
- ・ ベルトの本数が少なく、解放部が大きいので**腹部を圧迫しません**。
- ・ **カラーバリエーションが豊富**で色の組み合わせが楽しめます。

